

## モザンビーク共和国月報（2014年3月）

### 主な出来事

#### 【内政】

- 2日、FRELIMO 党中央委員会会合においてニュシ国防大臣が10月15日実施予定の大統領選挙同党立候補者として選出。
- 24日、マプトにて行われた政府・RENAMO 間対話において懸案であったオブザーバーの選出につき、地域オブザーバーとして南ア、ボツワナ、ジンバブエの参加が合意。

#### 【外交】

- 26日、ゲブーザ大統領は、第2回モ・葡二国間サミットの一環においてコエーリョ同国首相と対談。葡による132百万ドルの借款が合意された。

#### 【経済】

- ・12日、ナカラ市でナカラ緊急改修計画の起工式が実施された。同プロジェクトは日本政府による借款で実施され、同式典には、ムティッセ運輸通信大臣が出席。

#### 【内政】

##### 政府・レナモ間交渉

- ・5日、マプトにて行われた政府・RENAMO 間対話において武装襲撃停止に合意。
- ・17日、マプトにて開かれた政府・RENAMO 間対話後記者会見においてパシェコ政府代表は、同対話において軍事問題に関する協議への国際オブザーバー同席を認める旨表明。
- ・24日、マプトにて行われた政府・RENAMO 間対話において武装攻撃停止プロセス監視問題に関する地域オブザーバーとして南ア、ボツワナ、ジンバブエの参加が合意された。国際オブザーバーについて今後協議予定。RENAMO 側の提案は、国連、米、葡、伊、英。

##### 選挙関連

- ・1日、大統領選 FRELIMO 党候補者が選定のための党内候補者は、ヴァキーナ首相、ニュシ国防大臣、パシェコ農業大臣、ディオゴ元首相、アリ元首相の5人に絞られた。
- ・2日夜未明、FRELIMO 党中央委員会会合においてニュシ国防大臣が10月15日実施予定の大統領選挙同党立候補者として選定された。

##### ゲブーザ大統領のオープン・プレジデンシー

・17日、ゲブーザ大統領は、任期最後のオープン・プレジデンシー）を実施し、ニアッサ州、カボ・デルガード州を訪問。住民への演説においてニュシ氏を大統領選フレリモ党立候補者として紹介。

・18日、ニアサ州ムエンベ郡にてゲブーザ大統領は、太陽光発電所竣工式（建設費用35百万米ドル）を主宰。

#### MDM 大統領選候補の決定

・30日、シモイオにて閉会したモザンビーク民主主義運動（MDM）党第2回全国評議会において大統領選挙への同政党立候補者としてシマンゴ党首が選出。

#### 中央選挙委員会の構成

・20日、国会にて中央選挙委員会構成において市民社会から選ばれる同メンバー候補者を審査する国会特別委員会が設置された。

・31日、中央選挙委員会構成において市民社会から選出される4名枠への立候補応募が締め切られ、サロマン・モヤナ記者、ジョゼ・ベルミーロ記者を含む4名の推薦が国会へ提出された。

#### その他

・21日、モアンバにて行われたマプト州地雷除去完了式においてバンゼ外務協力副大臣は、当国にて20年以上前に開始された地雷除去活動が終局を迎えている旨表明。現在、残る活動中の地域は、イニャンバネ、ソファアラ、マニカ、テテ4州、埋設面積4.2百万平方メートル。同式典に国連、米、蘭、スエーデン、ベルギー、独、日本、ノルウェー、豪各国大使・代表が出席。

#### 【外交】

##### アモリン伯防衛大臣のモザンビーク訪問

・19日、マプトにてアモリン伯防衛大臣及びモンドラーネ国防大臣同席の下、伯・モ防衛協力協議が行われ、人材養成・機材供与分野も考慮した関係強化に合意した。

##### 第2回モザンビーク・葡二国間サミット

・26日、マプトにてゲブーザ大統領とコエーリヨ葡首相が同席する形で第2回モ・葡二国間サミットが開かれ、両国家発展及び両国民の生活向上のために二国間パートナーシップを一層強化することで合意。同日、両国政府は、水産・運輸通信・防衛・国家予算支援を含むグローバル協定を締結した他、132百万ユ

一口の借款（71 百万ユーロは譲許的借款および 61 百万ユーロは商業借款）および 40 万ユーロの一般財政支援を決定。

・27 日、マプトにてコエーリヨ葡首相来訪に合わせて開かれた「ポルトガル・モザンビーク、持続可能な開発のためのアートな一シブ強化セミナー」においてゲブーザ大統領は、世界の企業家と連携関係を構築できる有力な企業家を育成する意向がある旨表明。また、コエーリヨ同首相は、今次二国間サミットにより、両政府対話の重要性及び継続意向が再確認された旨表明。

## 【経済】

### マクロ経済・金融

・3 日、マプトにて仏貿易大臣来訪の一環で、モザンビーク経団連と仏経団連は、二国間ビジネス機会促進に関する覚書に署名。

・5 日、ナマーシャにて開かれた企画開発省調整審議会の冒頭においてクエレネイア同大臣は、既存するベルルアーネ（マプト）、ナカラ（ナンプラ）、マンガ・ムンガーサ（ソファラ）各経済特区に加え、ザンベジア州モクバ経済特区の設立を検討中である旨表明。

・6 日、ナマーシャにて開催中の企画開発省調整審議会においてサンボ投資促進センター所長は、今年度の外国直接投資額は 70 億米ドルに達すると見込んでいる

・モザンビークは、2013 年までに印 EXIM 銀行の融資 640 百万米ドル（12 融資）を受けた。裨益対象分野は、農村地域電化、道路改修、住宅、給水網拡大、技術移転。

### 天然資源

・米テキサスにて開催された HIS CeraWEEK 2014 会合にてスカロニ伊 ENI 社常務は、モザンビーク産ガスの流通開始は 2018 年末もしくは 2019 年始めを見込んでいる旨表明。

・マプトにて開かれたモ経団連全国企業家評議会会議においてピアス鉱物資源大臣は、当国の経済発展に資する的確な資源管理を行っていく意向を表明。

### エネルギー

・エネルギー省、エドゥアルド・モンドラーネ大学、韓国国際協力庁（KOICA）との協力の下太陽光熱発電システムの設備が検討されている。先週、韓国技術者団が事前調査を実施。韓国が 13 万米ドルを援助。

・国内電気エネルギー消費量は、年々 70 メガワット増加しているのに対し、カ

オラ・バッサ水力発電所の発電量に増量は見込まれていない。現時点においてモザンビーク電力会社（EDM）が国内需要を満足させるための代替エネルギー源が欠如している状態。

#### インフラ・道路・回廊開発

- ・2012年9月に起工されたマプト環状道路は、今年12月までに完成する見込み。
- ・12日、ナカラ市でナカラ緊急改修計画の起工式が実施された。同プロジェクトは日本政府による32百万米ドルの借款（ママ）によるもので、安倍総理のモザンビーク訪問によって強化された誓約を具現化したもの。同式典には、ムティッセ運輸通信大臣が出席。
- ・21日、ナンプラにてナカラ回廊地域開発戦略にかかる第2回国際セミナーが実施され、クエレネイア企画開発大臣は、Vale社の鉄道建設（マティーゼ～ナカラ・ヴェーリャ間）においてナンプラ市を通過する鉄道の建設可能性について再度検討する必要がある旨主張した。ナンプラ市役所側は、同鉄道建設による鉄道事故多発や交通渋滞、騒音、環境汚染などに対する懸念を既に表明していた。また、同大臣は、市民団体によるProSAVANAに対する抗議は、具体的活動詳細に関する情報不足に起因している旨指摘。
- ・ナカラ国際空港建設の進捗状況は、工事計画の60%を完了、2015年第1四半期の完成、同年8月からの開所が見込まれる。

#### その他

- ・12日より、ナカラ回廊ナンプラークアンバ間の乗客列車が運行を再開。北部開発回廊関係者によれば、通過中の列車に投石や妨害・破壊が頻発したため、運行を不特定期間休運すると決定していたが、州政府・警察などとの協議の結果、再開が考慮された。
- ・24日、日本政府は、WFPを通じて実施されている全国学校のおやつ供給プログラム強化のため40万米ドルを援助する意向を表明。WFPによれば、同プログラムに必要な食料を国内にて調達するため、小農の生産性向上、超過生産食糧の不消費削減、地方教育セクターの機能強化などに貢献することが期待される。橋本大使は、同援助が脆弱な環境にある学童の勉学に貢献し、結果として子ども達の将来への希望も高まることを期待する旨表明。
- ・22日、ガザ州ビレーネ郡にて世界水の日に際し、中国政府支援による井戸100箇所建設プロジェクトの開始式が行われた。
- ・25日、マリンEU大使とマカモ国会議長は、助成金契約に関し共同発表を行う予定。同契約は、公平なガヴァナンス制度促進を目的とする戦略計画実施のために技術・財政的に国会を支援するもので、援助額は105百万メティカル。

- ・ USAID は、 当国アグロビジネス支援のため 170 百万メティカルを拠出。